わかってください

▲時間がたつに連れ、障害者役が段々と無口になってしまいました

▲歩道が無いと不安です

▲ペットの鳴き声は聞こえません

▲食事中も体験を続行しました

また、周りの音に合わせて声量を調節できなかったので、周りが静かなのに声が大きかったり、その逆に周りがうるさいのに声が小さかったりしたようです。

市内を歩いていると、車の音が全く聞こえず、何度か危険な目に遭いました。そのとき、ガイドヘルパーが車が来ていることを教えてくれたので助かりました。歩道を歩いていても、後ろの人に気付けなかったので、ヘルパーに教えられてから、気が付いたことが多かったです。

飲食店で昼食を取りましたが、音が聞こえず、雑談することもなかったせいか、いつもより食べ物がおいしく感じられませんでした。聴覚に障害があることは健常者以上に生活するうえで神経をつかい、とても大変だと思いました。

わかってください！

視覚障害・聴覚障害の方々は、私たちにお願いしたいことや気付いてほしいことがあります。普段、私たちが歩いている道路。そこには、段差などがたくさんあります。見えている私たちは事故を未然に防ぐことができますが、視覚障害の方々には、それが見えません。点字ブロックを頼りに歩いていても、途中でブロックが消失していたり、ブロックの上に車が駐停車されていたりすると歩くことが不安になってしまいます。そのため、どうしても外出がおっくうになりがちです。

また、白つえを使っている人がいても、その意味を知らない人々もいました。みなさんは、白つえの意味を知っていましたか。もちろん私たちだって、福祉に興味を持つまで知ることはなかったし、そのような立場のかたには見向きもせずに、自分には関係のないものだと思い過ごしてきました。しかし、大学で福祉の勉強をするうち、皆同じ人間なのだ、他人事ではないのだということが分かってきました。

聴覚障害者を外見で判断することは難しいです。声をかけたとしても耳が不自由で聞こえない、話せないということで逃げてしまう人もいるのではないでしょうか。でも、逃げずに紙と筆記用具を出して、筆談して会話することが大切なのです。

今、ガイドヘルパーが不足しています。ヘルパーを必要としている方々は、たくさんいるのですが、大館には1人か2人しかいません。私たちに出来ることは、手話を覚えたり、視覚障害者の目となったりすることだと思います。

障害者の立場で考えることは大切ですが、頭で考えるだけでは理解できないことが、たくさんあります。そんな時、擬似体験や、障害を持つ方々本人と話をすることで、実際の不便さや思いが分かると思います。

少しでも多くのかたが視覚・聴覚障害の方々へ思いを寄せることで住みやすい安全な街が実現するはずです。もっと障害者の現実を知り、何か自分たちにできることを実行してみませんか。

最後に、取材にご協力していただいた皆さんに感謝を申し上げます。